

サービスラーニングでの活動を通して得られた新たな発見や学び

活動先：NPO 法人 ひだまり

クラス：末盛 慶 先生

私は、今回サービスラーニングでひだまりに活動させて頂いた。活動する前は、まずひだまりへ事前訪問をした。事前訪問を通して、活動先の雰囲気や実際行っている事業などを直接理事長の方から色々と聴くことができとても勉強になった。また、事前訪問に行くことによって、礼儀正しくすることや身だしなみをきちんとすること、電話の仕方など今後実習や社会に出たときに必要なマナーを理解することが出来た。

また、5月のNPOバスツアーを通して一番感じたことは、それぞれの活動先によって目的や大切にしていることが違うということである。私は、NPOバスツアーでネットワーク美浜とばお、ふわりに見学させて頂いた。そこで、ネットワーク美浜では、人と話すことの大切さを学んだ。また、ばおでは不登校の子どもたちの居場所をつくっていくことの大切さを学んだ。そのため、あえて子どもたちのやりたいことをやらせてあげているのもばお独自の取り組みだと感じた。ふわりでは、イベントを多くやっていることや障がい者が働くラーメン屋があるなど地域の人々に障がい者に対する意識を高める事業を行っていることも分かった。

そして、NPOバスツアーでさまざまなNPOの活動を知ったところで、私が活動するひだまりでの目的や目標、どのような活動を行うのかをグループで話し合った。一番話し合ったのは、活動内容である。どのような企画を行えば、ひだまりの利用者の方に楽しんでもらえるかが分からないためとても悩んだ。最終的に企画はうちわ作り、風鈴作り、郷土料理作りに決まった。目標では、「利用者の方が主体となり、私たちが昔の遊びなどを利用者の方から教えて頂く」「ひだまりのさまざまな活動に関わることで、地域におけるひだまりの役割を知る」「デイサービスを利用する高齢者の方や他の事業でさまざまな世代の方と交流し、私たち自身の視野を広げる」の3つとし活動することにした。

私は、6日間のひだまりでの活動を通して、さまざまな発見や学びができた。ひだまりは、4人班であったが実際は4人で活動することはなく基本バラバラで活動することとなった。主な活動としては、デイサービスと喫茶ひだまりでの活動であった。デイサービスで学んだことは、利用者さんとのコミュニケーションの仕方である。私は、活動初日とても緊張していたため、どのように利用者の方とコミュニケーションをとれば良いのか分からなかった。しかし、活動後職員の方が言って下さった言葉がとても印象的でとても考えさせられた。それは、「ただ利用者の方の傍にいただけでも利用者の方は安心する」という言葉であった。つまり、非言語的メッセージもコミュニケーションの一つであることを学んだ。また、私はうちわ作りを利用者の方とさせてもらった。うちわ作りは、うちわキッドを使い簡単に作業してもらうように工夫した。作業中に利用者の方は、私たちに任せてしまうことが多く最初は困った。しかし、利用者に無理矢理進めるのではなく、のりを貼りつける作業など利用者のできることを行ってもらうことの大切さを学んだ。また、利用者によって作業のペースが違うため、利用者のペースに合わせていくことの大切さも学ん

だ。さらには、うちわ作り以外にも坊主めくりや将棋くずしなど利用者の方とのレクリエーションを行った。そこで、利用者の方に昔の遊びを教えることができ、利用者の方とコミュニケーションを取ることができ、楽しく過ごすことが出来た。また、デイサービスでの活動を通して、書道教室や紙芝居、手話通訳の方などさまざまなボランティアの方の存在が目についた。つまり、地域の人々の協力が必要だということに気づくことが出来た。

また、半田市図書館にある喫茶ひだまりで活動した。そこでは、主にスタッフの方の手伝いをした。水出しや注文をとること、料理を出すなどアルバイトと変わらないことをした。しかし、実際アルバイトと活動とは、違った感じがした。例えば、喫茶ひだまりでは、子どもから親子連れ、中年の方、常連のお年寄りの方などと幅広い年代の方に利用されていることを感じる事が出来た。また、コメントが書けるノートもありたくさん書き込みがあって感動した。さらに、ひだまりの広報である「ようこそようこそ」を喫茶ひだまりに置いてあることも地域に認知してもらおう工夫だと思った。喫茶で活動していると養護学校に通う子どもたち二人が実習をしに来たため、一緒に活動することとなった。二人と活動したとき、どのように関われば良いか戸惑ったが、しっかり手伝っていた様子で二人の頑張っている姿を見ることが出来た。他には、感謝グループといった障がいのある子どもをもつ母親の集まりがありあるのだが、その子どもたちと半田市空の科学館へプラネタリウムを観に行くことになった。そこで、子どもたちと仲良く楽しく過ごすことが出来た。

私は、活動最終日に感謝グループの子どもたちと一緒にカラオケやひだまりに戻ってのバーベキューをした。バーベキューでは、以前の喫茶での活動から気に入られたある子から告白されるといったことがあった。その時私は、返事をしないで流してしまった。活動後、感謝グループのお母さんから告白されたら断って欲しいと言われた。その子は、思春期であるため、きちんと無理と伝えることがその子の成長に繋がるということを学んだ。今回の活動を通して、障がいを持つ子どもとの関わり方を学ぶことが出来て良い勉強になった。

また、職員の方から聴いて学ぶこともいくつかあった。例えば、ひだまりでは郵便局に作品を展示するなど地域と密接な関わりがあることを知った。また、感謝グループの代表とひだまりの理事長が友達ということを知った。このように、昔からの友達がとても NPO として活動していく上で必要になってくると思う。

私たちひだまり班では、デイサービスで利用者との会話を通して多いと感じた独居老人の問題について考えることにした。そのため、今後どの地域においても見守り活動などを行っていき、孤独死対策を行っていく必要があると思う。また、今後ひだまりなど NPO が高齢者の居場所や生きがいをづくりを行っていくことが求められると考える。そのため、ひだまりが発行している「ようこそようこそ」を見守り活動として一人暮らし高齢者世帯に配布することも良いと思う。さらには、配布することによってひだまりの存在を知ってもらうことに繋がると思う。つまり、孤独死を未然に防ぐための取り組みを行うことが今後必要となってくると考える。したがって、今後高齢者の居場所として NPO は重要な役割を担っていくことが予想される。このように NPO の新たな役割があるということを考えることができたのもひだまりでの 6 日間の活動があったからである。今回の活動を今後の実習や現場で活かしていきたい。